第５回柴又観光まちづくり検討会　議事録

日　時：令和４年７月４日（月）19：00～20：30
場　所：旧川甚　新館　２階
出席者：宇野会長、天宮委員、石川委員、熊倉委員、齊藤（勝）委員、齊藤（國）委員、
　　島村委員、徳増委員、早崎委員
　　（五十音順）９名出席
アドバイザー：東京大学名誉教授　内藤廣氏、東京大学名誉教授　伊藤毅氏
事務局：中島観光課長、目黒都市計画課長、佐藤生涯学習課長、澁谷観光担当係長、
　　観光課職員、生涯学習課職員、株式会社ＫＩＴＡＢＡ
議　題：（１）アドバイザーの紹介
　　（２）敷地全体の空間デザイン・レイアウトについて
　　（３）今後のスケジュールについて
＜事前送付資料＞
【資料１】第５回柴又観光まちづくり検討会資料

１．開会

２．議事

（１）アドバイザーの紹介

事務局より、アドバイザー２名を紹介

（２）敷地全体の空間デザイン・レイアウトについて

事務局より、「資料１」及び「川甚新館文化的景観・葛飾柴又の歴史と文化の展示」について説明

宇野会長：　事務局より、「敷地全体の空間デザイン・レイアウトについて」及び「川甚新館文化的景観・葛飾柴又の歴史と文化の展示」についてご説明いただきました。川甚跡地が柴又公園の拡張用地として取得予定である中で、建物及び敷地全体のデザイン・レイアウトイメージをお示しいただきました。デザイン及びレイアウトはあくまでイメージですので、これまでの検討内容を踏まえ、ご意見をいただければと思います。

　まず、アドバイザーとしてお呼びさせていただいた内藤先生及び伊藤先生よりご意見を伺えればと思います。まずは、伊藤先生よりお願いいたします。

伊藤先生：　みなさま、これまでの熱心なご議論、たいへんお疲れさまでした。本日が５回目の検討会ということで、これまでの議事録を拝見したうえで参加いたしましたが、ほとんどの論点が尽くされており、実にさまざまな意見が出されていてすばらしい案に近づきつつあると感服いたしました。このプランに織り込まれた機能は、みな

さんで徹底的に揉んで、ゾーニングされたものです。大変なご苦労だったと思います。

柴又の文化的景観を担当させていただいた私の立場から意見を申し上げます。まず、検討会のスタート時点で内藤先生とご一緒させていただいた時に申し上げたのが、川甚という江戸時代以来の料亭そのものの価値が高いことは言うまでもありませんが、それを超えてこの場所がもつ歴史的・文化的価値がきわめて重要であるということでした。江戸川という巨大な川筋がつくる空間軸と、帝釈天の参道の軸、この 2 つの軸が交わる場所に帝釈天と川甚があります。この場所の重要性はいくら強調してもし過ぎることはなく、柴又の過去はもとより将来を考えるうえでも、とても重要なところですので、皆さんが自分たちの問題として考えなければ、いいものが生まれないと思っていました。そのあたりをみなさん十分認識されて、この場所の意味を多角的に考えていただいたと思います。

一つ思ったのですが、川甚という名前を引き継ぐのかという議論があったかと思います。川甚とは料亭の固有名詞ですが、いまや全国的に有名な名前でもありますし、「川甚通り」というように道路の通称にもなっています。川甚という言葉を今後、柴又から消してしまうのかどうかは重要な論点だと思います。漢字で「川甚」と書かなくても、ローマ字で「KAWAJIN」と書くこともできます。場所と名前は不可分な関係にあって、その歴史が重要になってきます。「〇〇文化施設」や「〇〇観光センター」などの名称にしてしまうと、どこにでもあるような施設名になってしまい、かつてここに老舗の川魚料亭・川甚が存在していたということはやがて忘れ去られてしまいます。この跡地利用のコア・コンセプトが何なのか、というところが依然としてぼんやりしていると思います。そこがもう少し明確になってきますと、自然に名称も決まると思います。

文化的景観の立場からすると、とても大事な柴又のこの場所に対して、どういう名前を与えていただけるのか。川甚という言葉を固有名詞としてではなく、一般名詞へと拡張し、未来を指向するかたちで継承できれば、それはそれですばらしいと思いますし、一方、全く別の名称になってもかまわない。今はとりあえず「川甚跡地計画」という言葉を使っていますが、その計画が終わった後、ここにどういう名前を与えるかは、住民のみなさんが主体的に考えなければいけないと思います。特に日本人は、こういう計画は他人任せのことが多く、みんなが決めてくれればいいということになるのですが、今回は区が税金を使って買い取っていただき、葛飾区全体に意味のある施設を作ろうと思っているので、みなさんの施設だということを再認識していただければさいわいです。

柴又の文化的景観につきましては、その文化や歴史を後世に残していくということで、2 階フロアに展示空間を確保していただくのはとてもありがたいと思います。文化的景観そのものの展示は、国内でも先進的な試みだと思いますので、ぜひ力を入れていいコンテンツを盛り込んでいただきたい。

一方、文化的景観というと、過ぎ去った古い歴史を残していくということになりがちですが、それであれば博物館などに行けば良いという話になります。ここは博物館とは違うということを強調したいと思います。「文化」というのは「言葉や説

得力で人を動かしていく」という元々の日本語の意味がありますが、英語で言うと「カルチャー」は、「カルティベイト」＝「耕す」という語源から来ています。文化とは常に耕し創造していくものだということです。

検討会のなかで議論された体験学習という機能がありますが、柴又を中心として葛飾の人たちが、伝統的な技術や生産を踏まえた職人教育やアーティスト教育などを体験し、起業したい人がチャンスを掴めるような場になると、文化的景観がもっとも重要視する「生業の継承」という課題にこたえることができます。過去の「死んだ展示」ではなく、将来につながる「生きた展示」になることが重要です。現在の案では、従来の博物館的な、静かに歴史を観覧するだけになっているので、もう少しアクティブな活動を誘発できる仕掛けがあると良いと思います。そこには、たとえば食文化として、川甚弁当などが提供されると嬉しいと思いますし、川甚のレシピを引き継いで、食文化を学びたい人を育てていく、インキュベーター的（新しく生まれた企業を育成する組織）な施設になることもありえます。

文化的景観は、単に過ぎ去った過去を残すのではなく、歴史と継承しつつこれからを作っていく、そのダイナミズムに本質があります。それは柴又の場合、観光とセットで考えることがもっとも近道だろうと思います。観光課と生涯学習課とのタイアップは、今までの日本の行政ではきわめて稀少なケースだと思います。その点で柴又は最先端を進んでいると言ってよい。そのうえで、川甚という名前をどうするのか、この施設にどういう名前を付けるのかという話になってくると思います。もう一歩、突っ込んだご議論をいただければと思います。

宇野会長：　伊藤先生、ありがとうございます。続いて、内藤先生、よろしくお願いいたします。

内藤先生：　ここまで持ってくるのにみなさん大変だったと思います。まだ川甚の閉業というショックな出来事の傷跡を癒している時期だと思います。

川甚の周辺を見てみると、土手との境目が切り分けられている感じがするので、公園を作るのであれば、できるだけ土手とつなげられると良いと思います。

レポートの内容はよくできているのですが、みなさんで議論して色々な意見を入れた結果、凡庸になったという感じがします。本当にそれでいいのか、委員のみなさんで改めて考えた方が良いと思います。川甚跡地の活用は、柴又の未来がかかっているからです。もっと先をいってほしいという希望があります。パースなど文句はないと思います。きれいで立派です。でも柴又らしくない。

わたしのような外の人間から見ると、下町文化ってそうだったかなと疑問に感じます。もっと人情があって、人と人の距離が近くて活気があるものではないかと思います。それがレポートからは感じられないのです。そのあたりをもう一段議論して、内容を決めて着地した方が良いと思います。

私は以前、中野区の駅周辺再開発の委員長を務めていたことがあります。サンプラザを壊してどうするかという議論がありました。その中で参考になりそうな面白い事例があります。再開発の中に、区が 10～20 坪の部屋を持つような仕組みにな

っていました。そこの家賃をすごく安く設定して、そこで何かやりたい人を公募したのです。その審査委員をやりました。ものすごい数の応募がありました。そういう新しいことをやりたい人を集めるような、産業セクションが関わるようなことができると面白いと思います。その応募の事例を紹介しますと、中野区の情報を集めるデジタルハブを作るという企画がありました。いくつも面白い提案がありました。秋葉原が再開発で立派なビルが建ちましたが、それまでは秋葉原はゴチャゴチャしていて家賃が安かったので、IT 系の小さい企業がたくさんありました。家賃が上がって秋葉原から出て行ってしまった IT 系企業を、中野に引っ張ってこようという話がありました。そのうちの 1 つに、今から 10 年前ですが e-スポーツの訓練所を作ろうという企業の応募がありました。これは採択しなかったのですが、採択していれば、中野区は e-スポーツのメッカになっていたと思います。ここでも、そういう新しいことが何かできると良いと思います。下町文化の中で新しいことをやりたい人などが 5 年くらいの賃貸契約で入って、ダメならまた違う人が入ってくるなど、そのような話もいいかもしれません。そういう盛り上がりがあるとよいと感じます。今のままだと、葛飾柴又の歴史を紹介して、これでもう終わり、まちを畳んでしまうのではないかという感じがしてしまいます。もう少し未来が入らないかなという印象を持ちました。

宇野会長：　内藤先生、ありがとうございます。内藤先生及び伊藤先生の意見を踏まえて、ご質問はありますでしょうか。ある方は挙手後、ご発言お願いします。

委員　　：　若者たちの作品展などをしたらどうかという意見が前回出ていました。若者は色々な力を持っているので、それを展示する、イベントとして誘致しようということは考えていました。

　川甚という名称についてですが、近隣の方々とお話をすると、川甚は廃業してしまったので、川甚という看板を外したほうが良いのではないかという声があります。廃業した状態ですがまだ住んでいるので、周りの人は結構気を使っているという話でした。

伊藤先生：　川甚という名前を、いつまでも引っ張れないということですね。

委員　　：　今までの意見がよくまとまってきましたが、何となく柴又らしくないかもと感じています。

　もし、川甚という名前が残ったとしたら、コンセプトはもう少しわかりやすかったと思います。何にもないところから検討した結果、このようなものが出来上がるということだと思います。出来上がったものが果たして、本当に魅力的なものなのか、柴又に合っているのかと考えると、少し乖離しているような気がします。

　名称の件は、個人の感情もあるので簡単には言えませんが、川甚がある場所に、同じ名前のものがあれば、わかりやすいコンセプトを持って作りやすいと思います。そうすると、庭園、公園、建物の一体感が出ると思います。一体感のあるデザ

インも大事だと思います。今の案も確かに良いのですが、何となく柴又らしくない気がしてしまいます。

柴又の参道を見るとわかると思いますが、少ないスペースでいかにお客さんに見てもらうかというものがあります。一方、この施設は、空間に余裕がありすぎるので、もう少し下町らしいギチギチ、ガチャガチャした感じがあっても良いと思います。

計画自体が良くできているのですが、第三者が見た時に、ここに行きたいと思うのでしょうか。良くできすぎているかもしれないです。柱の太いコンセプトがあると、より分かりやすいと思います。

委員　：　名称は、柴又歴史館（川甚）など、地方に行くとよく見ます。川甚という名称はちょっと違うと思います。周りの人も気を使うと思います。

「〇〇文化センター（川甚跡地）」などであれば良いのではないかと思います。一料亭の名称なので、固有名詞のみだと、それをずっと引きずっていくというのは、ちょっと違うと思います。周りに住んでいる人は、結構心配しています。

委員　：　内藤先生もおっしゃられていましたが、まだ正直言って、ここは人様のものという感じがしています。少し前までここで宴会していましたから。

名称は、ここが川甚でなければただの空地を買ったようなものだと思います。柴又ということで、川との連続性という意味では、「川」「川魚」を想起させるものが良いと思います。

帝釈天を中心とした参道がありますが、この建物は柴又のコンテンツの一つとして、共通の雰囲気、デザイン、コンセプトになると嬉しいです。

委員　：　1回目の講演で内藤先生がお話になっていましたが、参道を300m化というお話がありました。現参道と、川甚跡地で東と西の位置関係になっていますが、そこをどうにかして300mを再現できる仕組みができないかと思っています。現参道は、まさに人が通る道ということで、こちら側もうまく融合できるような作り方が出来ればよいと思います。こちら側を東口の玄関にするのであれば、土手との分断が否めないというお話があったので、何とか太鼓橋がかけられないかと思っています。

内装については、伊藤先生も仰っていましたが、2階の文化観光機能は大事だと思います。今までの柴又と川甚跡地、文化的景観を世に繋いでいくということは大事だと思いますが、ここだけ突出すると、人がどれだけ入るのかなと思ってしまいます。それであれば、1階のカフェとコラボして、一体的に展示して食事しながら見られるようにすると良いと思います。QRコードで情報を得られるようにする空間をうまく演出してはどうでしょうか。そうすると、2階のスペースが空いてしまいますが。

観光地と言えば、食事が大事だと思いますので、川魚料理を出すなど、区内の色々な美味しいお店が入ると良いと思います。初めは珍しがってこちらに人が集まると思いますが、そのうち参道にも必ず人が流れると思います。そうすると、お山

を中心に300mがつながるのではないかと思います。

ご質問ですが、参道は西側に入口がありますが、東側は門を建てるとしたらどこに立つのでしょうか。橋がかからないとすれば、入口がどこになるのか疑問に思います。

委員　：　昔は、川甚も川千家も温泉があってお客さまがお風呂に入れたようですが、そういうものは考えていないのでしょうか。今は、足湯などにお客さんが結構入っています。どんどん銭湯がなくなってきているので、どこかにそういうものがあっても良いのではないかと思います。例えば、土手で運動された方が汗をかいてそのまま帰られるのではなく、足湯で少し足をきれいにして一服できると良いのかと思います。

昔は、浴衣を着た人がお料理を食べて一服しながら参道を散歩していたということも川甚の文化としてあったので、どこかでできればと思います。

委員　：　足湯は法律上ダメだと思う。

委員　：　法律上ダメなものは色々とあると思いますが、できないものを考えると無難なものになってしまうと思います。橋はどうなんだという話にもなります。実は、寅さん記念館もスーパー堤防の橋なんですね。もう少し突っ込んでも良いのではないかと、個人的に思います。どうせなら参道ともコンセプトの一体感のあるものを考えていただけると良いと思います。ここだけすごくきれいで、品が良くて、柴又じゃないような気もします。そういう意味でも、この施設を改修する前段階から参道との一体感、敷地や建物など、全体の統一感を意識してほしいと思っています。

委員　：　法律に関する手続きをきちんとすれば良いと思います。

委員　：　これまでの色々な意見でワクワクするものが多かったと思いますが、1階はやりたいことがぎっしりと詰まっていて、場所が足りないと感じます。

一方、2階は歴史文化の紹介コーナーが多く、こんなに展示するものがあるのかと思いましたが、本日の説明を聞いて、ボリュームも理解できました。先ほどのお話であったように、ワクワク感や柴又らしさをもう少し広いスペースで取れたら良いなと思います。

お風呂があるのは良いと思います。浴衣姿の方がまちを歩いているだけで、すごく雰囲気が変わります。ただ、そうするのであれば、営業時間を長くする必要があると思います。夜の柴又を楽しんでもらうことで、滞在時間を長くすることにつなげられると思います。夜の柴又がきれいで、もっと見てもらいたいという意見は以前にもありましたが、難しいのかなとも思いますが、やってほしいと思います。

委員　：　インバウンドが復活すれば、浴衣を着た人も増えると良いですね。

委員　　：　井戸を掘るだけで２億円かかるのではないでしょうか。

伊藤先生：　先ほどの東の参道の入口をどこにつくるかというご意見についてですが、どこが始まりにするかはなかなか難しいです。この道は国分道という比較的広域の街道であり、その歴史も古い。わたくしは今回、新しく場所を定義しても良いのではと思います。

たとえば、拡幅予定の都道に第２ の参道の門を作って、そこを潜り抜けると古刹の真勝院があり、川甚跡地があります。この道沿いには柴又八幡宮があり、考古学的な知見ではこの場所が古墳時代にまで遡るということですから、現在の帝釈天の参道よりも、歴史的には古くて重要な道ということになります。今回の計画を契機に、通称「川甚通り」の歴史的な意味を再定義し、矢切の渡しにもつながる第３の軸として位置づけ、水と陸の結節点としての性格を浮かび上がらせるような演出ができないでしょうか。今までの議論はややもすれば、敷地の内側で考えていましたが、敷地の外側や敷地を囲う道路の位置づけがとても大事だと思いますので、そういう意識を持って整備計画が策定されることに期待を寄せています。

太鼓橋についても、なるほどと思いました。この計画は柴又公園の延長上にあるという話ですので、柴又公園とやがて一体化するのであれば、土手との連続性は当然考えなければいけない大きなテーマになると思います。そのため、たいへん難しいことは承知のうえで、ここで一度徹底的に議論しておいた方が良いと思います。

内藤先生：　土手の太鼓橋についてはハードルがとても高いので、早めに言って動いておいた方が良いと思います。社会運動として、みんなの意見がそちらにまとまってきたら、国も都も意見を聞かなければいけなくなると思います。ただ、普通に考えると、土手に人工物を絡ませるのは、とてもハードルが高いことです。

ただ、最近やったことがあります。陸前高田市の津波復興記念公園の防潮堤の上に祈りの場を作りたいということで、何とかやりました。防災のことを考える人からすると、余計なものを作ってその堤が切れたらどうするんだという心配事になります。柴又の土手は交通量が多く、子どもが横切るのは大変だし、自転車も通るので大変だと思います。もし、オーバーデッキがあって土手に行けたら絶対に良いと思うので、みなさんで言い続けると良いと思います。そうすれば、いつかできます。

この検討会はどこかで落ち着かせなければいけないと思いますが、建物や公園の運用の仕方は、結論を無理に出さないで議論を続けていくのが良いと思います。

例えば、工事に入ったら見えてくる景色が出てくると思います。屋上に登ったらみんなに見てもらいたい景色もあるかもしれません。皆さんがまだわからない中で結論を無理に出そうとしなくてもいいんじゃないかな。今全部を決め切らなくても、作りながら変えても良いぐらいに考えておいてもいい。よくあるのは、２階の展示室。どこかの展示会社が企画書や絵を書いて作っていくという流れでは、血が通ったものにはならない。作りながら、この委員会など意見を言える場を残しておくと良いのではないかと思います。状況もみんなの思いも変わっていくのです。

以前、日向市の駅に隣接した大きな公園を作りました。お金がなくて植える木も

ないので、苗木くらいしか植えられないという話をしていました。そこの再開発の反対派の方がいたのですが、出来上がりが見えてくると良い場所ができると思っていただいたようで、家の庭の木を全部持って行ってもいいよと言ってくれて、立派な木がたくさん植わりました。
出来上がってくると、みんな気分が変わってくるものです。できれば、そのように良い方向にその場所が変わっていくといいですね。まちの人が参加して、いい木をみんなが寄付してくれるなら、桜の木でなくてもいいかもしれない。明治神宮も、全国から寄付された木が植えられて、今はあんなに立派な森になっています。みなさんから木や石をもらうなどの仕掛けをして、もう少し血が通ったものにするべきです。絵に描いたようなきれいな公園ができるのは良いかもしれないけれど、山の手のような公園が出来ても柴又らしくない気もします。この後も、みなさんで意見を言って作っていった方が良いと思います。

委員　：　川甚という名前については触れてはいけないと思っていました。川甚という名称にいつまでもこだわるのはどうかとも思っています。跡地にあまりこだわらなくても良いと思います。
　1階、2階のフロアは、歴史博物館や葛飾柴又会館など、よくあるパターンはやめていただきたいと思います。どこにでもあるような、道の駅の端に展示やお土産コーナーがあるようなものには、しないでいただきたいと思います。
　飲食店については、賃料を低く設定していただければ、テナントに入ってもらえるかもしれません。若い人がおもしろいことをやってくれると、新しい柴又になると思います。
　柴又らしさとは何かと考えると、時代時代で変わっていくと思います。門前という良さもありますが、またこんな柴又もあるのか、というのもありだと思います。若い人がギターを弾いて騒ぐのもおもしろいかもしれないです。歴史文化継承と固く考えすぎると、つまらなくなるかもしれないと個人的に思います。

委員　：　次の世代に引き継ぐということが大事だと思います。全国の小中学生、高校生の修学旅行の拠点にしたいと思います。そして、おじいちゃんと孫をつなぐツールで寅さんがあり、参道でおじいちゃんおばあちゃんにお土産を買い、お寺の色々なワークショップで手作りのお守りを作るなど、まちを上げた中でこの敷地があると面白いと思います。どう引き継ぐか、新しいものに変わっていくこともちろん大事ですし、変えてはいけない空気感を引き継いでいくのも大事だと思います。

委員　：　土手からスロープでつなげられると良いと思っていました。花火の時など、土手の上に上がれると良いと思います。今は、遠回りしなければ土手に登れないのです。強度があれば、土手から屋上に直接つなげることも考えましたが、強度が足りないので無理ということでした。

内藤先生：　江戸川は一級河川なので、国の河川になります。国との連携・合意はとてもハー

ドルが高いと思います。でも、言い続けるとそういう時代が来るかもしれません。ビジョンを持ち続けることが大事だと思います。いきなりやれと言っても無理だと思いますが、みんなで言い続けると将来どこかでできるかもしれない。図に点線を書いて繋いでおくと良いかもしれません。

委員　　：　土手の下に駐車場を作った時も、10 年かかりました。建設局を口説いて、東京都も口説いて道路を作って、やっとできました。新しい道路も作りましたが、設計ミスでバスが登れない状況です。

内藤先生：　今、「流域防災」という言葉があります。これまで河川局は川を守るというスタンスでしたが、それだけでは守り切れないということが最近わかり始めて、川を流域で考えなければ防災が成り立たないということを言い始めました。川とまちが仲良くしなければまちを守れないという時代がきます。国交省で言うと、河川局と道路局と都市局が、一緒に話をし始めるという時代がようやく来ています。最近になって始めたばかりですから、もう 10 年くらいかかるかもしれません。

江戸川とまちが一体でつながって、防災を一緒に考える時代が必ず来ると思いますので、先ほどの橋の話もあり得ると思います。急に増水した時にどう逃げるのか、そうすればここに避難経路があると良い、という話になると、橋が必要となるかもしれません。そのため、点線でも良いので橋の線は残しておくと良いと思います。言い続けると良いと思います。

3　閉会

宇野会長：　ありがとうございます。本日の議題は以上です。以上をもちまして、本日の検討会を終了させていただきます。今後とも、皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。